

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	上村観光施設整備	会計	一般会計	事業No.	613	施策順No.	11-069	
		事業種別	政策・その他	予算科目	7-1-4-17-3			
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	上村自治振興センター			
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	18	終了	22

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	施設利用者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		上村の景勝地数(しらびそ、御池山クレーター、下栗の里、山岳)	4	4	4	4	4	
	意図	現在の施設を整備することにより、南アルプス観光の拠点とすることができる。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	登山者数(人)	120	140	150	200	250	300	B
	観光者数(人)	93275	84079	89251	90000	71300	90000	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	南アルプスの登山者は増加したが、7月豪雨の影響で観光客数は減少した。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	遠山郷一带の観光振興を図り、観光客の増加を図る。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	①遠山郷8団体連絡会議の開催で遠山郷の一体的な地域振興策を協議する。	①連絡会議の開催	①年 3回
23年度実施計画	本事業を廃止し、遠山郷観光戦略プロジェクト事業に統合する		

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
	一般財源		0	0	0	
	計 (A)		0	0	0	
	正規職員所要時間					
	臨時職員等所要時間					
	人件費計 (B)			0		
	トータルコスト A+B			0		

4 事業に対する市民や議会の意見

南アルプス自然遺産登録の運動がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	事業者等が出荷額等を高める活動をする	施策の成果指標又はムトス指標	既存事業者の消費額(観光)下伊那 H15 141億円→H23 159億円
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	遠山郷観光の推進は上記の施策の向上に結びついた。また、尾高山、奥茶白山への登山者が増加した。		
	後期に向けた課題	遠山郷観光戦略会議にて、遠山郷一体の南アルプス整備、国内初の隕石クレーターの商品開発と周辺整備を検討していく必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	遠山郷8団体連絡会議を結成して、各団体の連携を図った。 隕石クレーターの商標登録を実施し、新たな商品開発を進めた。 南アルプスの登山道整備の調査を実施し、候補地調査を実施した。		
	後期に向けた課題	遠山郷観光戦略会議で、今後の遠山郷が一体となった観光振興の計画を策定して、市の過疎計画等へ反映する必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	8団体連絡会議を開催して他の事業と重複しないようにした。		
	後期に向けた課題	上村、南信濃地区が連携し一体となった観光振興計画を樹立し推進することで、特に広報等でコスト削減を図るとともに、効果的な広報展開を行う。 間伐材を利用し、コース案内板・環境保護啓発板等を整備しコスト削減を図りたい。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題	市民、登山者観光客が登山道整備の受益者負担をできる仕組みが必要である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	遭難対策協議会、南アルプス山の会 (これまでの経過から、自治振興センターで遭対協の事務局を行っている) 遠山郷の産業振興、若者定住を願って遠山郷8団体連絡会議が結成された (市として会議開催の連絡調整を行っている)		
	後期に向けた課題	上村側からの登山道整備を、遭難対策協議会、南アルプス山の会と共同で調査、整備をする必要がある。 遠山郷8団体と共同で、遠山郷観光戦略計画の策定と実行をする必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	遠山郷全体の観光振興を進めるために遠山郷8団体連絡会議が結成された。またクレーターや南アルプスなどの観光資源を通して観光整備をすすめた。		
	後期に向けた課題	遠山郷観光戦略計画の中で、遠山郷一体の南アルプス整備、国内初の隕石クレーターの商品開発と周辺整備を検討していく必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input checked="" type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	--	-------------------------------	--------------------------------	--